

## NUCLEAR TRUTH PROJECT PROTOCOLS TRANSLATED JAPANESE

### 核の真実プロジェクト

( 権利・敬意・互惠 )

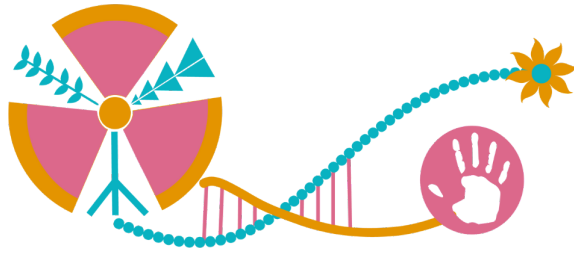
# 核の真実を誠意をもって追求するためのプロトコール ( 道徳的行動規範 )

このプロトコール ( 道徳的行動規範 ) は個人や組織や共同体が正しい相互関係を保ち、尊重し合い互恵的かつしっかりとした目的に基づいた相互関係を築く為の礎となることを目的とした文書です。

核兵器そしてその他の核の弊害により被害を被った人々にとって、プロトコールは被害者援助など核弊害是正の協議の中心に個人の実体験を据えるのに役立ちます。ヒバクシャをはじめとする核被害者の皆さんが、対外的に開かれた態度を保ち、自身の言動に責任を持ち、かつ自身の尊厳を守る安全なスペースを構築する努力を応援するのが私たちの使命です。

市民社会団体スタッフや政府職員、科学者、医療その他専門技術者など被害者共同体の外にいる関係者達にとって、プロトコールは核被害者共同体にアプローチする際の一般的な手引きとして、もしくは関わりを始める際の出発点として役立ちます。

核の被害を被った共同体のひとつひとつが、その共同体固有の実体験とそれにまつわる専門知識を有しています。そのうちの多くが外部の人間と関わる際に共同体固有の慣習や道徳規範をもち、デリケートな問題を取り扱う場合、特有の決まり事や慣例をもっています。外部の人間が核被害を体験した共同体にアプローチする際、長期に渡る世代を超えたトラウマや現在進行形の健康被害などに必ず配慮しなければなりません。



## NUCLEAR TRUTH PROJECT PROTOCOLS TRANSLATED JAPANESE

このプロトコールは社会的弱者を護り、更なるトラウマや被害を防ぎ、環境修復や被害者支援の為の努力が、核産業による既存もしくは将来予想される被害を是正する取り組みの中核に据えられる事を目的としています。

更には核被害者共同体、個人、団体など、利用する方の便宜に応じて変更や刷新に柔軟に対応する事を目的とした、常に更新できる文書です。

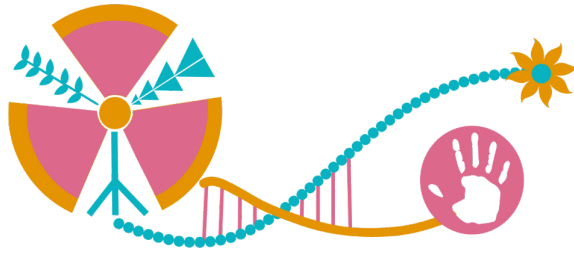
権利・敬意・互惠はプロトコールの三つの柱です。核産業にまつわる真実の追求や被害者補償などに従事し、その一環として核被害者や先住民と関わりを持つ人々には、是非この三つの柱から成るプロトコールに則り行動することを提唱します。

## 権利

核被害者共同体と共に仕事（イベントやキャンペーンなど）を行う際、相手に敬意を持って報告・連絡・相談に臨み、依頼する仕事の内容や方法、相手にもたらす影響に責任を持ち、最後まで完遂しなければなりません。

上記に加え、核被害者には以下の権利があることをきちんと認識する事が望まれます。

- （核被害者が先住民の場合）先住民の権利の枠組み（例：先住民族の権利に関する国際連合宣言）や所属する地元共同体特有の道徳規範や慣わしを理解し仕事に臨むことで彼らの文化の継続、存続、尊厳を護る。
- 被害者に関する情報の取り扱い（収集、利用、複写、発信など）は被害者の所属する文化や法、共同体の期待に沿うよう、明確かつ合意の上の取り決めのもとに行う。
- 自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意を明示する。拒否権や途中で撤退する権利、匿名権も含まれる。
- 個人情報保護し、個人や共同体の希望があれば匿名性を維持する。



## NUCLEAR TRUTH PROJECT PROTOCOLS TRANSLATED JAPANESE

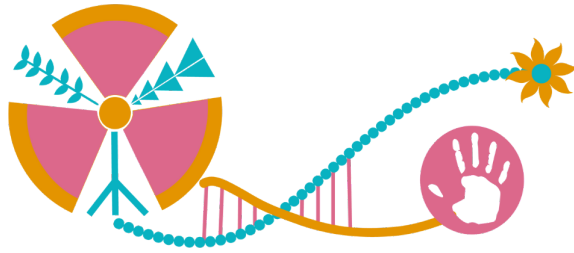
- 核被害者個人やその共同体が情報を提供する場合、彼らの知的・文化的財産権が保証され、情報権保持者としてまた情報元として彼らの名が確実に明記されるようにする。

### 敬意

核兵器産業は多くの人々や共同体に対して、何世代にも続くトラウマや被害も含む多様な損害を与え続けてきました。核被害者が直面し続けてきた生身の体験を確認し、敬意を払わねばなりません。多くの核被害者共同体にとって他者との繋がり、そして動物やその他全ての生きとし生けるものたち、土、空気、海や水との繋りはなくてはならぬものであり、それらを保護する責任があることをきちんと理解しなければなりません。

核被害者以外の人間が核被害者と共に行動を起こすもしくは協業する場合、相手への敬意をもち、以下の行為や道義に則り行動することを検討して下さい。

- 相手に更なる害をもたらず、もしくは既存の弊害を助長する可能性のあるいかなる行動も慎む。
- 公正、公平、正義の原則を遵守し行動する。
- 心を込め誠意を持って相手の話を傾聴する。
- 相手に敬意を持ったやり取りに心がける。会話が相手の母語でない場合には通訳や翻訳を徹底し、専門用語の濫用を避け相互理解を深められる形でのやりとりを徹底する。
- 故人の写真の取り扱いについては関連する文化の風習を学びそれに準じ行動する。



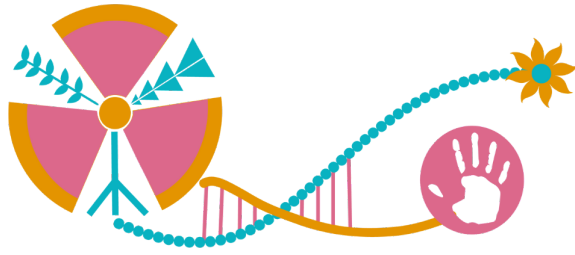
## NUCLEAR TRUTH PROJECT PROTOCOLS TRANSLATED JAPANESE

- 方針や公約を発表または採用する際、必ず該当する個人の許可を得る（該当する場合）。
- 核被害者やその共同体とやりとりする際、動機や言動、予想される成果に関し、隠し事なく一貫して透明性を維持する。
- 自分が病気の場合、核被害者共同体や長老の訪問は避ける。

### 互恵（互いに利益や恩恵を与え合う関係）

互恵（互いに相手に利益や恩恵を与え合う関係）性は多くの共同体の道義の中核を成す考え方である。敬意と互恵に基づいた、双方に良い結果をもたらす関係性の構築を目指し行動すると同時に、搾取的で植民地主義的な関係を避け、分かち合い、目標に向け共に努力する姿勢を心がけましょう。

- 核被害者やその共同体から収集された情報やデータ（証言や研究データなどを含む）は、知識の伝達や生産に関わるものであり、コミュニティにとって影響を与える資源であることを認識する。
- 謝礼やその他の方法を通じて、資金や収益を共有する方法を模索しよう。
- 核被害者共同体内での仕事や研究、様々な技術支援やトレーニングの機会を提供するなど、技能や才能の構築を支援しよう。
- 核被害者共同体から採集された情報や物資は、その共同体メンバーや共同体を代表する団体、もしくは提供した個人などと共有し、その所有権を共同体が有するべく努力しよう。
- 共同体メンバーと同じくその中で仕事を行う外部の人間にも共同体に対して責任があることを自覚しよう。



**NUCLEAR TRUTH PROJECT  
PROTOCOLS TRANSLATED  
JAPANESE**

核の真実プロジェクト ウェブサイト

<https://nucleartruthproject.org/>

注：核の真実プロジェクトのこのプロトコル（道徳的行動規範）は常に更新され続ける性質を持っています。この和訳は2024年6月、ロバートソン石井りこにより翻訳され山根和代により校正されました。